

AQUA LIFE

月刊 アクアライフ

魚とのコミュニケーション
2009 July 7

発売 マリン企画



オホーツクでアクアサイエンスを学ぶ

東京農業大学生物産業学部 アクアバイオ学科4年生 岩田大介

北海道の大地とオホーツク海に抱かれた豊かな自然を背景に、あらゆる生物産業に多角的にアプローチしている東京農業大学生物産業学部。わたしの在学しているアクアバイオ学科は、平成18年4月、オホーツクキャンパスに誕生しました。その名の通り、水圏（アクア）の生物（バイオ）を学べる特色ある学科です。わたし達は知床半島の水棲生物調査、アザラシなど海獣類の生態研究、北海の研究、魚類における誘引・忌避フェロモンの研究、クリオネ・サメ・エイ・深海魚・熱帯魚などの生理・繁殖研究や魚病研究、などの研究に大いに魅力を感じ、満足しています。また、水圏の生態学から地球温暖化を考える研究や、ウオーターフロント論など、現代社会に求められる様々なアクアカルチャーの幅広い課題にアプローチしています。

講義では水圏のみならず農学系の生産・加工・流通・経済など、文理を融合した幅広い知識を養うことができます。農大は実学を旨としており、実験実習が多いのも特徴で、入学式の翌週から提携している標準サイモン科学館で行う幻の魚イトウを用いた水族館実習、プランクトン観察や水質調査の乗船実習、遺伝子によるアザラシの親子判定など、1年次からほぼ毎週実習が行われています。

2年次後期には水産増殖学、水産資源管理学、水圏生物化学、アクアゲノムサイエンス、水圏生態学、水圏環境学、健康科学という7研究室のいずれかに入室します。そして、それぞれの専門的な知識の習得と卒業研究にチャレンジし、高度な知識・技術、国際的な視野に立った豊かな発想力を身に付けられるように努力しています。

北海道の大地とオホーツク海に抱かれた豊かな自然を背景に、あらゆる生物産業に多角的にアプローチしている東京農業大学生物産業学部。わたしの在学しているアクアバイオ学科は、平成18年4月、オホーツクキャンパスに誕生しました。その名の通り、水圏（アクア）の生物（バイオ）を学べる特色ある学科です。わたし達は知床半島の水棲生物調査、アザラシなど海獣類の生態研究、北海の研究、魚類における誘引・忌避フェロモンの研究、クリオネ・サメ・エイ・深海魚・熱帯魚などの生理・繁殖研究や魚病研究、などの研究に大いに魅力を感じ、満足しています。また、水圏の生態学から地球温暖化を考える研究や、ウオーターフロント論など、現代社会に求められる様々なアクアカルチャーの幅広い課題にアプローチしています。

現在、わたしはキチジの種苗生産技術の確立を目指して、日々研究を行っています。深海をはじめ、水中の生物の謎を解明するために本学の大学院に進学予定です。将来は水圏生物の生殖学に関する研究者になりたいです。

本学科では世界で一番ふやすことの難しいとされるウナギの種苗生産技術を用いて、深海魚キチジの仔魚を43日間飼育することに成功しました。これは世界最長飼育記録です。また、天然物を用いた魚病細菌の防除研究は世界が着目する革新的な成果を出しています。さらに、進化から考える水産資源（魚介類）の管理研究やサケマス類の誘引・忌避フェロモン研究に関して世界トップレベルの先生方がいます。

本学科では世界で一番ふやすことの難しいとされるウナギの種苗生産技術を用いて、深海魚キチジの仔魚を43日間飼育することに成功しました。これは世界最長飼育記録です。また、天然物を用いた魚病細菌の防除研究は世界が着目する革新的な成果を出しています。さらに、進化から考える水産資源（魚介類）の管理研究やサケマス類の誘引・忌避フェロモン研究に関して世界トップレベルの先生方がいます。



東京農業大学

生物産業学部

アクアバイオ学科



水産資源分野

- 水産増殖学研究室
- 水産資源管理学研究室

アクアバイオ分野

- アクアゲノムサイエンス研究室
- 水圏生物化学研究室

オホーツク水圏環境分野

- 水圏生態学研究室
- 水圏環境学研究室

HOKKAIDO

女満別空港—オホーツクキャンパス 車で15分

〒099-2493 北海道網走市八坂196

E-mail nyushi01@bioindustry.nodai.ac.jp

nodai.ac.jp

Tel・Fax 0152-48-3920

アクアバイオ学科
独自ホームページ

アクアバイオブログ

検索



アクアバイオコミュニティ

検索



出張講義

学内案内いたします。
お気軽に左記まで
ご連絡ください。

学内案内